

## 第1回RC勉強会

日時：2019年6月7日 19:00-21:00

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 26号館 11階 1103号室

メンバー：草刈、羽澄、辻村、真田、板垣（記）

資料：<https://app.box.com/s/k237f8ze8k9nf7zgaz95il6e43oad616>

### 議事

#### 1. 事務連絡など

6月5日(水)自然保護憲章の制定の日に、東京法務局に登記申請を行った。登記が完了するのは6月13日の予定。

#### 2. 「自然保護活動35年の軌跡と課題」 プレゼンター： 草刈秀紀（RC代表理事）

草刈氏がこれまで携わってきた自然保護活動の35年間の記録の発表。

1979年のカモシカの保護と被害対策に関わったことを皮切りに、様々な自然保護活動に携わる。日本自然保護協会での嘱託職員を経て、WWFジャパンに就職。1993年にはオーストラリア支部に赴任し、南太平洋の自然資源を持続的に活かしていくための活動に携わる。日本に帰国後は愛知万博における新住宅市街地整備事業計画への反対活動を行い、地域の生物多様性の保全に貢献。2002年～2003年には生物多様性基本法の制定に携わり、大きな功績をのこす。今後は「生態系で考える自然と共生する社会」をテーマに、自然保護を福祉などの社会的課題にもつなげていきたいと考えている。

#### 3. フリーディスカッション

羽澄：昔の鳥獣法に比べたら法制度は整ってきた。しかし、現場に落とし込まれていないのが現状。一般の市民生活に染み入るアプローチが必要。「生態系で考える」というのは1970年代から議論されてきたことだが、日常に落とし込むことが今も出来ていない。草刈さんの提案にある、政治を変えていく、そのためにロビイストを育成するというのは大事だろう。いろいろなテーマがあると思うが、環境に向き合うにあたっての何か柱となるものがあるとよい。SDG'sの2030年目標なども日常生活に落とし込めるものは何か？環境に向き合う新しい思想が必要。RCに参加される様々な方と問題や課題を議論して、人口減少社会、温暖化する社会に生きる、生態系を基軸にした生き方が必要。

辻村：地球温暖化とか大きなスケールの問題は、なんとなく答えがわかっていることなので議論がしやすい。しかし目の前の自然保護問題はなかなか議論されない。自然保護協会をあえて目の前の自然環境問題を相手にしてきた。パタゴニアの社員さんのように、ライフスタイルの中に自然保護問題が入ってきている人が増えたら良い。一般市民にどう自然保護を落とし込むかという点については、市民に向き合って起こすアクションと、政府に対するアプローチの2つがあって別々に議論していく必要がある。

現在多様性という言葉は浸透しつつある。が、生物多様性という言葉はなかなか浸透していかない。どうしたら良いのか。「本気の食育」として、学校で豚やニワトリを飼って最後にみんなでシ

メて食うみたいな授業があっても良いのではないかな。

羽澄：市民活動の中で展開していくべきかもしれない。様々な組織と連携していくべきかもしれない。そうすることを楽しいことにしていけないといけない。鳥獣問題も身近になってきているので、新たな時代に生まれるコミュニティにどう向き合っていくかということも今後の課題。活動のゴールとして、一つの節目はSDG'sの2030年でよいだろう。

#### 4. 今後の活動について

どうやって活動を広げていくか？

議論の内容を全てオープンにするのか、半オープンにするのか。

→今は半オープンにして、方向性の議論などは事務局で行う？

今後も色々な方にプレゼンをしていただき、みんなで広くディスカッションしていきたい。

専門家だけでなく一般市民にも話してもらいたい。自然保護に直接関わっていない人にも。

例えば、ラムサール登録湿地で、野鳥の会 VS 漁協の議論が起こっているが、自然保護側ではないほうの漁協からも話を伺ってみたい。

今後タスクフォースのMLを拡大していく。

#### 次回第2回勉強会

期日：7月26日（金）

時間：午後7時より

場所：早稲田大学（予定）

プレゼンター：羽澄俊裕さん

仮題：21世紀日本のワイルドライフ・マネジメントー課題とSDG's的解決方法を考えるー